

低木が侵入した荒廃農地や荒廃放牧地を フレールモア等により生産性の高い放牧地へ再生する技術

肉用繁殖雌牛の放牧は荒廃農地の解消に有効ですが、低木が侵入し、牛の好む草の生産量が減ってしまった土地では家畜の生産性も上げにくいという課題がありました。しかし、刈払機やチェーンソー等を用いて低木を伐採し、敷地外へ運び出す従来の方法では時間がかかりすぎます。これは、荒廃が進んだ既存の放牧地でも生じている問題です。このような問題を解決できる、低木にも対応したフレールモア等を利用した除去方法を紹介します。

☆ 技術の概要

1. フレールモアは回転する刃で植物を叩き切る機械で、低木を現地で破砕することにより残渣がチップ状になります。この残渣は草の生育を妨げないため、荒廃農地や荒廃放牧地から残渣を持ち出す作業を省略でき、低木の除去作業が大幅に効率化されます。
2. 低木に対応したフレールモアには様々なタイプが存在し（図1①-④）、小面積であればシュレッダー刃を装着した肩掛式刈払機も同様に利用できます（図1⑤）。適用範囲

（図1）や作業能力（図2）に基づいた適切な機種選択により、より効率的に作業ができます。

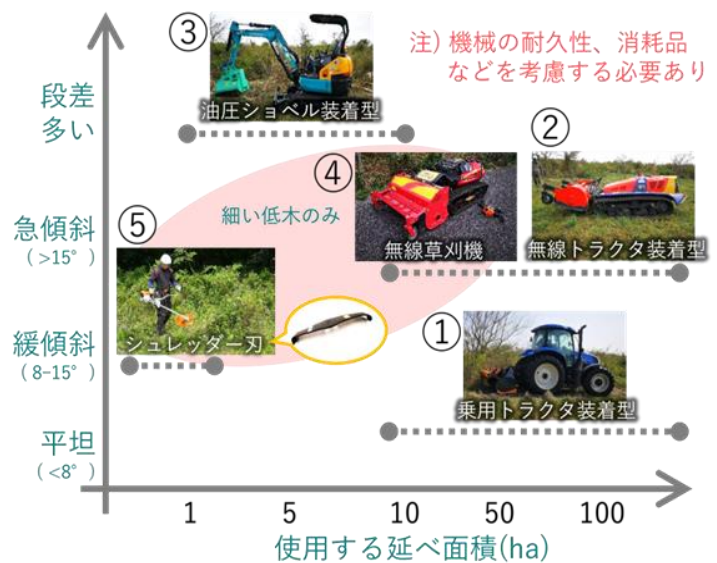


図1 低木に対応したフレールモア等とその使い分けの目安

☆ 活用面での留意点

1. 本技術では、低木の根はそのまま地下に残ります。低木の除去後に耕起する場合は、その点を考慮してください。
2. 除去作業後も、放牧利用のみでは徐々に低木の再侵入が生じます。初回だけでなく定期的な除去作業を続けることで、再度の荒廃を省力的に防止できます。
3. 詳しくは、「スマート放牧導入マニュアル-荒廃農地の再生による環境保全と生産性向上-」（https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/162121.html）を参照してください。

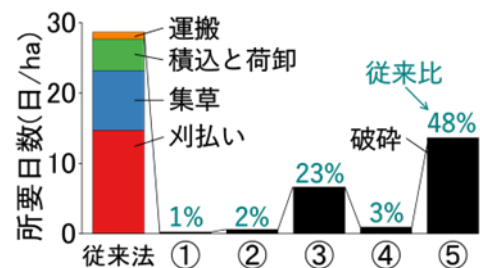


図2 従来法とフレールモア等の作業に要する日数の比較

（農研機構・西日本農業研究センター 柿原秀俊・平野清）